

1. 新旧の価値がせめぎ合う16・17世紀の仏で、人間の本性を冷静に観察し、
真の生き方を随筆や格言などで明らかにしようとした「道德家」。
2. **PERSON** 16世紀フランスの人文主義者で、宗教戦争の中で人間の精神を
深く考えたモラリスト。
3. モンテーニュの主著。語源：英語の essay エッセイ「随筆」
4. **WORD** モンテーニュが、真理を求め続ける積極的な懐疑主義の立場を表
現した言葉。偏見や独断から脱した寛容の精神に基づく。
5. **PERSON** デカルトに反発し、キリスト教の真理を説いたモラリストで、
17世紀フランスの哲学者・数学者・物理学者で宗教家は誰か。
6. **BOOK** パスカルの主著。死後、友人が断片を集めて編集。語義：フラン
ス語の「思惟」
7. パスカルの説く、「数学の推論と論証に基づく理性中心の論理的な精
神」。
8. パスカルの説く、「微妙な心の動きを把握する心情中心の直観的な精
神」。
9. **WORD** パスカルが、思考する主体に人間の偉大さが、弱く死すべき存在
に人間の悲惨さがあることを表現した言葉。
10. パスカルの説く、人間の弱く不安定な在り方。偉大と悲惨、天使と獣、
無限と虚無の二面性を持ち、両者の間を揺れ動く存在。
11. パスカルが、「神の偉大さと人間の悲惨さの両面を体現」していると説
明し、繊細な精神（心情）によって直感できるとした存在。

T. Q. 「モンテーニュとパスカル、それぞれのヒューマニズムに対する疑いとは？」

T. A.

「私は何を知っているか（ク＝セ＝ジュ？）」という言葉を残したモンテーニュは理性を不完全なものとし、真理を求め続ける積極的な懐疑主義の姿勢をとった。また、パスカルは「幾何学的精神＝理性の論理」と「繊細の精神＝心情の論理」を区別して、その両立の大切さを唱えた。